

## 令和五年度 岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、卒業生、修了生の皆さんをお迎えして、令和五年度学位記等授与式を執り行うことができますことは、皆さんだけでなく、ご家族ならびに関係者の皆様、そして私たち教職員にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。

皆さんは、本学に入学してからのほとんどの時間を、ウィズ・コロナのもとで過ごしてこられました。日々の生活に加え、授業、部活動、アルバイト、研究や就職活動などにおいて、様々な制限を受け続けて来られたことと思います。皆さんは本当によく耐えて、困難を乗り越えられ、無事に今日のこの日を迎えられました。皆さんのこれまでのご苦勞に敬意を表するとともに、皆さんのご家族とともに、今年度の学位記等授与式を挙行できることを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、ご家族ならびに関係者の皆様に、岡山大学を代表し、万感の思いを込めて、ご卒業ご修了のお祝いを申し上げたいと思います。本日は、誠におめでとうございます。

私は昨年 4 月の学長就任に際し「不易流行の大学経営」を提唱いたしました。「不易流行」は今日のキーワードです。この一年間、学内外でずっと言い続けてきたことであり、皆さんもどこかで目にしたり、耳にしたのではないかと思います。ぜひ記憶として留めておいて下さい。「不易流行」は、松尾芭

蕉の俳諧の理念であり、時代が変わろうとも不変なもの・変えてはいけないものを「不易」と言います。また、時代の変化、社会の要求や期待に応える形で変化させていかねばならぬものを「流行」と言います。改めて皆さん自身にとっての不易流行とはなにか、ぜひ、卒業後も折に触れて自分事（ごと）として考えていただきたいと願います。

私は大学経営における不易流行の「不易」は、岡山大学に関わる過去・現在・未来の人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（well-being）の実現を追求することと定義しました。そして、「不易流行」の「流行」は、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし、形として先導する組織経営改革・人材育成・研究開発などを行うことと定義しました。

私が学長として経営の根幹に据えている「不易」の部分において、学生の皆さんは最も大切なステークホルダーであり、岡山大学が一体となり「誇りと希望」を醸成する中心的な存在です。そのことは卒業後も変わりません。そして、今日参加の保護者ならびに関係者の皆様も岡山大学にとっては大切なステークホルダーであります。卒業後も同窓生として様々な形で皆さんと関わってまいりたいと考えています。

卒業生、修了生の皆さん自身がヒトとして生きる際に根幹的に据えるべき

「不易」として求めていただきたい姿勢は、自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、いわゆる「利他の心」をもって自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとすることです。言い換えれば皆さん一人一人が主役（主体）なのです。

今回の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、皆さん一人一人の生活のみならず人類社会に大きな影響を及ぼし、不確実性に満ち溢れ予測不可能な未来を自分事（ごと）として改めて考え直す機会となりました。地球温暖化に対する脱炭素社会の実現、デジタルの力により誰一人取り残されない社会の実現も間近に迫った他人事（ごと）ではない課題です。

私は、43年前の1981年、昭和56年に岡山大学を卒業しました。いま振り返れば本当にあっという間の43年間でありましたが、在学中に得たよき友、よき師との様々な交わりは私自身の間人としての成長や仕事のキャリアなどに大きな影響を与えた何者にも代えがたいものであり、岡山大学で学ぶことができたことを人生の誇りに思っています。これこそが「岡大愛（LOVE）」です。卒業生、修了生の皆さんにも「岡大愛（LOVE）」を持っていただきたいと心から願っております。重要なステークホルダーである卒業生、修了生

の皆さんの「岡大愛 (LOVE)」が色あせることなく、卒業後も醸成していただけるよう岡山大学は様々な形で皆さんと関わってまいります。

私は卒業から今日まで様々な経験をしました。多くの楽しみや喜びを経験しましたが、自分の力が及ばぬ挫折、どうしようもない絶望感、出口の見えない袋小路、後ろがない絶体絶命の崖っぷちの状況、まんじりともせず迎える朝などを経験することがありました。

今回のコロナ禍において皆さんは、過去の卒業生、修了生とは比べ物にならないくらい多くの困難に遭遇したことと思います。しかし、それをどのようにして克服して今日の日を迎えたか思い出してみてください。もしかしたら、いくつかのことはもう思い出せないかもしれません。デール・カーネギーは「悩み」ということについて様々な示唆に富んだことを教えてくれています。私自身、困難に遭遇した時に救われ心が軽くなった言葉があります。「一年前に思い悩んでいた事柄を思い出してください、そして一年後その悩みはどうなったか考えてみてください。2年前、3年前、4年前の悩みについてはどうでしたか？覚えていますか？」皆さんも振り返ってみてください。多くの悩みは「何とか」なっています。

しかし、「何とか」ならず、大きな壁として行く手を阻む悩みや困難もあり

ます。そんなことは一度や二度ではありませんでしたが、私を勇気付けてくれた言葉があり、それを紹介することで皆さんへの饒（はなむけ）の言葉といたします。それは『孟子』の言葉です。

「天のまさに大任をこの人に降（くだ）さんとするや、必ずまずその心志（しんし）を苦しめ、その筋骨を勞し、その体膚（たいふ）を餓えしめ、その身を空乏（くうぼう）にし、行いにはその為すところを佻乱（ふつらん）す。心を動かし、性を忍び、そのよくせざるところ曾益（ぞうえき）するゆえんなり」

訳）天（神々）が、その人に重大な任務や使命を与えようとするときには必ずその人を苦しめることから始めます。まずその人を精神的に追い詰め、志が折れてしまいそうな状況に陥らせる。そして、肉体的にも疲労困憊なボロボロの状態に陥らせる。そして極貧の状況にまで追い落とし、やることなすことすべて思い通りにならぬような（絶体絶命の）事態にまで追い詰めていくものなのです。それは、天（神々）がその人の心を鍛え、忍耐力を増大させ、通常ではできないことをできるようになるまで鍛えることで大任を負わせるに足る人物に育てようとしているからである。

大きな困難に遭遇したとき、そのことを悔やむのではなく、それは自分を磨くための試練であると思えること、思うように努力することで気持ちの持ち

ようがガラリと変わり周囲の景色が変わります。そして気持ちが楽になり新たなアイデアや気力が自然と湧いてきます。逆境や試練は乗り越えられる人にしか訪れません。本日この後に「孟子」と「天」というキーワードでネット検索をしてみてください関連のサイトがたくさん出てきます。今はピンとこない方のほうが多いかもしれません。しかし、この言葉を心の片隅にとどめておけばいつか必ず救われる時が来ます。

人生 100 年時代のいま、皆さんが本日迎えられた卒業・修了は、文字通りの“終わり”を示しているのではなく、皆さんにとってここから本当の「学び」が“始まる”ことを意味しています。ぜひ、皆さんも 4 月からの活動拠点を「新たな成長の場」としてしっかり認識していただき、生涯にわたり学び続けていただければと思います。

もちろん私たち教職員も、本学の同窓生として重要なステークホルダーである皆さんの更なる「学び」を引き続き支援してまいります。

卒業生、一修了生の皆さん、これから社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神、そして誇り（岡大愛（LOVE））を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍してくださることを心から祈っています。

そして、またいつかこの岡山大学のキャンパスに、成長した皆さんをお迎えする  
ときを楽しみに、私からの饞（はなむけ）の言葉とさせていただきます。こ  
のたびは誠におめでとうございます。

令和6年3月25日

国立大学法人 岡山大学長 那須 保友